

## 佐賀人の通った後は草も生えん！

(さがんもんが取った後の後は草も生えん)

鐘ヶ江 正 (白石町出身)

昭和40年代、石油類、ガソリンスタンドの営業販売業務に従事している頃、近畿の石油販売協議会があり、会社を代表として大阪のホテルにて40名余の参加がありました。会長の挨拶、各社のPR、自己紹介後、ホッと一息ついた時、タイヤメーカーの大阪支社長より「あなたは佐賀出身ですね」と尋ねられまして、突然ではありましたが、以下のような話をしました。

◆慶應3年(1867)頃、佐賀県東部と福岡県西部は筑後川(一級河川)が境界になっておりました。川は上流から土砂が流れて堆積し、小さな島(洲)ができました。その小島は『どの県が所有するか』と福岡藩の黒田氏より申し出があり、『半分ずつにしましょう』と話し合われ、では肥前藩鍋島氏が『下の方の半分をいただき(取った)ます』と話が決着しました。数年が経ち、水は背振山や川から流れ有明海に注ぎ、大雨などで水流が強く福岡藩の島の上部の先端が削れて、土砂利は下部に溜まり段々佐賀藩の土地が増えました。そこで『佐賀んもんが取った所は良いが、上の方は削れて細い草も生えん！』と言われました。佐賀人は先見があり賢いですヨネ。

◆昭和25～30年頃は国道、県道、町道は砂利敷の道路でした。農作業の副業として、縄、筵、吠を農協に出荷していました。大量の藁を藁打機や木槌で打って藁を柔らかくしていました。それでも出荷が追いつかない時は、国道や県道や他の車が通る道路の端に藁を一束ごと並べました。その上をトラックや馬車が通ると、その重みで藁が柔らかくなり、一斉に回収すれば良いのです。藁の下は日光が当たらず草も生えず、道路はいつも綺麗に清掃しますので一石三鳥です。ぺんぺん草も生えません。

◆戦中戦後は住宅を造るのに材木店には、柱、巾木、板ありません。実家の倉庫、納屋を解体し再利用しました。古い家を壊し廃材を分譲してもらい、それを馬車、リヤカーで運びます。砂利道ですから凸凹がありバウンドします。途中、釘、蝶番、銼(両端の曲がった大釘)が道路に落ちました。裸足で歩くとよく怪我をしました。紐に磁石を付け手に括ったり、腰紐に付けてズルズル引っ張って歩くと磁石にそれらの鉄くずがひっ付きます。それを回収し、バケツ一杯になったら鉄工所に持って行き、重量を測ってもらい、お金に替えました。砂利道をぞろぞろ磁石を引っ張ると土埃が昇りますが道路の安全でもあり、いつも道路は擦れて草も生えません。道路の凸凹には土砂を入れて補修していました。みんなの為です。

佐賀んもんは働き者です。雑草は小さい内に取り除く事がよいとされ、畑の雑草も几帳面に取り除く人が多いし、家の前の道に落ちているゴミの回収もします。何よりも知恵があり先見の明があると思います。

※徳間文庫『がばいばあちゃん・P34～』にもあります。

## ご協力金有難うございました

本誌第3号をお届けして、沢山の会員の皆様から「ご協力金」を頂戴いたしました。今後の事業運営資金として有効に活用させていただきます。ここに御礼の記しにご芳名を記載し、ご報告とさせていただきます。(M記)

記

(注) 入金受付順に記載いたしております。

<敬称略>

黒川時彦・森 勝・神田亜希子・富永義信・中野拓美  
内田康彦・田中重之・高園ハツ子・松林 淳・黒田房子  
野口勝朗・多田眞理子・吉田 明・若林 稔・福永弘之  
熊井國利・仁田邦男・廣口征男・小西一俊・森 弘義  
吉村照治・辻 一義・稲富弘満・辻 和弘・山田春夫  
和智ちさと・吉田恭美・荒木正晴・井上秀昭・山田 司



2015年9月/11月から大型新船“フェリーおおさか2”“フェリー一きたきゅうしゅう2”が就航！毎日2便で大阪と北九州を結びます。

快適な瀬戸内海の船旅をお楽しみ下さい。

◆ご予約・お問い合わせ

- ・予約センター : 050-3784-9680
- ・ホームページ : <http://www.cityline.co.jp/>



不動産管理・書籍出版販売

## 西山ビル株式会社

代表取締役社長 西山孝昭(みやき町出身)

531-0075 大阪市北区大淀南 1-7-8  
610-1101 京都市西京区大枝北沓掛町 4-30-19  
TEL/FAX 075-332-7561 携帯 090-1246-2480